

平成29年度モデル事業の概要

環境省環境再生・資源循環局総務課リサイクル推進室


学校給食3Rモデル事業 事例1

山梨県甲府市

学校から始める食品ロス削減の輪

「ごみへらし隊」と「給食支援員」の取組

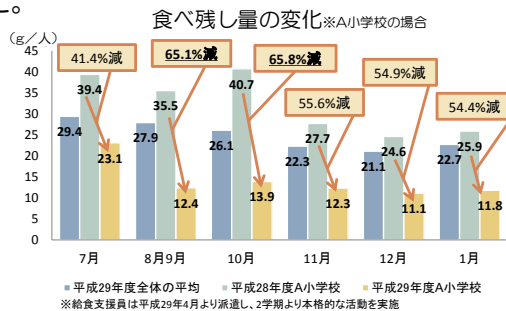
概要

	① ごみへらし隊	② 給食支援員
概要	<ul style="list-style-type: none"> ごみ減量に関する啓発を行うため同市減量課職員で構成 取組に協力してくれた児童をごみへらし隊の隊員に任命 	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年3月まで給食調理員だった職員2名で構成 給食の食べ残し量の調査とその傾向を分析し、児童が喜ぶ調理の工夫を実施
実施対象・規模	<ul style="list-style-type: none"> 自治会等の団体への出前講座を実施 幼児、小学生を対象に、廃品利用のエコ工作教室を実施 施設見学による食品ロスに関する啓発 	<ul style="list-style-type: none"> 市内2校をモデル校として、児童とのコミュニケーションを通して食育を啓発 

取組の効果

食べ残しの削減効果

- 野菜をハートや花型に調理する工夫などで、食べ残しが多かった学校の食べ残し量が最大65%程度削減された（下図）。
- 食べ残しが多い学校では、給食時間を知らせるチャイムがなく授業が延長されたり、配膳に時間がかかっていたために、食時間が短い傾向にあった。



児童の意識の変化

- 2017年9月時点では給食の食べ残しが捨てられていることを「知らなかった」児童は24%だったが、取組が定着した2018年1月時点では6%まで減少し、ほとんどの児童が食べ残しの廃棄を認識するようになった。

成功のポイント

- 学校給食の現場をよく知る「給食調理員」経験者を「給食支援員」に任命することで教育委員会や学校との調整や連携がスムーズに！
- 学校においては「業務負荷の増加」と捉えられないよう、環境教育としての「メリット」を明確に伝える！
- 結果は毎日計測！計測結果の「見える化」で児童の取組のアクセルに！

取組のコスト

- 啓発用教材製作費：約95.4万円
- イベント運営費：約11.8万円
- 児童啓発消耗品費：約2.3万円
- 生ごみ処理機リース料：約11.6万円（約4ヶ月間）
- 堆肥化関連処理費：約20.9万円（約6ヶ月間）

※モデル事業では、これらの他に堆肥化事業も実施し、バイオ式生ごみ処理機もリース。



概要

	① 給食準備時間の短縮	② 給食学習会・給食交流会の実施
概要	<ul style="list-style-type: none"> 授業終了後から「いただきます」までの時間を10分間以内にする目標を設定 児童は目標達成を目指して給食準備を実施して達成の可否を記録、達成した場合には点数を付与して廊下に掲示 	<ul style="list-style-type: none"> 「給食学習会」：食べきることの大切さ等に関する授業を市職員が実施 「給食交流会」：1週間、児童と給食を食べながら、食べ物の大切さ等を話す。献立に関するクイズ等も実施
実施対象・規模	<ul style="list-style-type: none"> モデル校3校で実施 * 全学年...1校 4年生のみ...2校 	<ul style="list-style-type: none"> モデル校5校で実施 * 1・2年生...1校、4年生...2校、3・6年生...1校、特別支援学級...1校

取組の効果

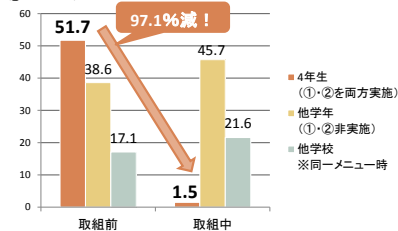
食べ残しの削減効果

- 「①給食準備時間の短縮」に取り組んだ児童では、1日1人あたり食べ残し量が65%削減(19.9g⇒7g)¹、「②給食学習会・交流会の実施」は、40%削減(8.4g⇒5g)²された。
※1)1・2・4・5年生対象 2)1・2年生対象
- ①・②の両方に取り組んだ場合は、56%削減(16.9g⇒7.5g)、97%削減(51.7g⇒1.5g)等、高い効果が見られた。※いずれも4年生の平均

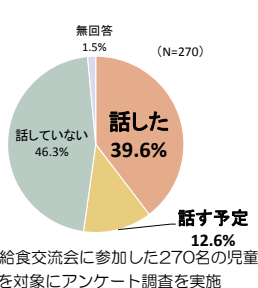
家庭への効果波及

- ②給食学習会に参加した児童のうち約40%が、学習内容を家庭で共有した。また、約13%は、今後家庭で給食交流会について「話す予定」とした。

取組前後の食べ残し量の変化 (g/人・日)



給食交流会について



成功のポイント

- 担当者本人(教務主任・担任教諭・栄養教諭)と打ち合わせ。担当者の思いを踏まえて取組内容を決定！(例：「低学年から食べ物の大切さを学ばせたい」⇒1・2年で給食学習会を実施、等)
- 任意の取組メニューを別途用意し、学校が実施したいと感じる取組を追加で実施！(体験学習等)
- 当日は先生の協力を得ながら取組を実施。特に担任教諭の協力を得ることが重要！

取組のコスト

《必要な物品》

- 教材冊子：平成28年度事業の調査結果を踏まえ、食べ残しの現状、食べきりの大切さ、取るべき行動等をまとめた教材



《必要経費》

- 教材作成費(A4、8頁)：約52.6万円
※平成28年度に作成、市立小学校22校に配布
- 市職員分の給食代：240円×人数×日数

あなたのまちでも給食3Rの取組を実施してみませんか？

「自治体職員のための学校給食の食べ残しを減らす事業の始め方マニュアル」を環境省HPで公開中！

《こんな情報も掲載しています》

- 事業の検討から実施までのフロー...各段階で検討が必要なポイントの参考情報
- 事業の意義/事業効果をまとめたシート
- あなたのまちの取組ポテンシャル・効果計算シート 等...

